

ひまわり



令和4年12月19日(月)

賢さとは



学校のテストで高得点をとる。英検などの資格試験に合格する。このような力があれば賢いと言えるでしょうか。答は「否(いな)」です。これらの力は学力の一部であり、それをもって賢いと表現するのは間違いです。本当の「賢さ」とは何かを考えてみましょう。

空調設備会社のA社長と話をしているとき、「うちの会社が人材育成で大切にしているのは、できる社員より賢い社員を育てることだ」と言っていました。

それでは「できる」と「賢い」にはどのような違いがあるのでしょうか。A社長は具体例をあげて、その違いを説明してくれました。

「できる」というのは、「外国語を話すことができるので、海外との商談に困らない」、「経理の資格があるので、決算書類の作成を全て任せることができる」など、高い職務能力を有している状況をさします。しかし、それだけでは社員として、社会人としては物足りないといえます。そこで必要になってくるのが「賢さ」なのです。

「賢い人」というのは、例えば次のような振る舞いのできる人だといえます。

4人で食事に行ったとします。お箸や薬味などがテーブルの端に置いてあります。それぞれに注文した料理が運ばれてきました。そんな時、お箸をとれない位置にいる人に、さっとお箸を渡せる人。

数名で会話をしています。Pさんは会話の中心となっています。Qさんは、どうもその会話には乗り気ではありません。Rさんは会話には参加できていません。そんな時、Qさんのために話題を変えることのできる人、Rさんが会話に参加できるように配慮する人。

この2つの例に共通しているのは、他者への配慮です。他者を思う気持ちがあるから、このような振る舞いのできるのです。A社長は次のようにも言いました。「人間力の高い人は、かならず仕事もできるようになる」

勉強して知識や技能をつけることは大切です。しかし、それ以上に人間力をつけることは、もっと大切なことではないかと思います。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

